

研究会の現状

岡本 和行

徳永さんたちによって1977年6月に創立された大阪工業英語研究会も1994年6月で満17歳になりました。月日が経つのは早いもので、私が入会してから3年半です。徳永さんの思い出については多数の先輩諸氏が寄稿されていますので、私は会の現状について報告します。

水上セミナー

なにわ会館からアピオ大阪に場所を移し、第三土曜日の10時から15時まで、水上先生にご無理をお願いしています。会員数は28名（1994年7月現在）です。幹事が酒好き(?)のため、飲み会が増えたとの声もあります。15時から16時の使い方は試行錯誤中です。

グループ研究会

第一日曜日の10時から16時まで東淀川勤労者センターで行っています。従来は「よい英文を書くためには何よりもまずよい英文を読むこと」をモットーにセミナー会員だけの相互研修を目的に始められたG研ですが、現在は会則を数年前に変更し、G研だけの参加が可能になっています。この変更の主目的は水上セミナーが難しい人に、まず、G研だけに参加して頂き、レベルアップを計っていただくことです。しかし、現在のG研会員は初心者でない2名（1994年7月現在）で、当初の目的を達成する状態ではありません。

G研の在り方についてはここ数年間何回となく話し合いを持っていますが、全員が同じレベルで満足するには至っていません。「初心者には雑誌記事は難しい」とのことで教科書的な課題を使用したり、2-3ヶ月前に分担の割当を行ったりと、考えてはいるものの新入会員の増加にはなっていません。G研の在り方については堂々巡りをしているようにも思えます。幅広い視野で、角度を変えた見方も必要かと思っています。

これまで十数年間続いている歴史のあるG研ですから、それなりに良い点があると思

います。ここ1年近く新入G研会員はないものの、毎回10名前後の出席者があるので「これでも良いのではないか」と自己満足をすることもあります。

“テーマ”を決めて一年くらいでまとめる“ことができれば問題も解決するのではないかとも思っています。

新しい試みとして8月より講義方式（午前中）を実施する予定です。

研修旅行

1994年の研修旅行は、4月9/10日の両日、瀬戸内海に浮かぶ緑の島、小豆島において行いました。参加者は17名、内女性7名で、いずれも研修旅行がはじまって以来の最高の人数でした。幸い快晴に恵まれ、楽しく、有益な旅でした。

概略コース：(4/9) 姫路→福田港→土庄町立公民館(勉強会)→小豆島シーサイド・ビラ(4/10) 平和の群像→銚子溪/美しの高原/寒霞溪→大部港→日生→姫路

恒例の夜の懇親会で、徳永さんの追悼文集を出すことが提案され、発行に至った次第です。さらに、これを1回きりの文集に終わらせず、今後継続的に本会として雑誌を出してはどうかという提案にまで発展しました。これは、これまで十数年間蓄えてきた内部エネルギーを発散させ、広く社会に呼びかける新しい段階に本会が入ったことを意味するものと思います。